

民主 焦る「安保対案派」

執行部は慎重、提出見通せず

民主党の細野政調会長、馬淵澄夫副幹事長、長島昭久元防衛副大臣ら保守系議員が20日夜、東京都内で会合を開き、参院での安全保障関連法案の審議に向け、党の対案を準備すべきだとの考えで一致した。ただ、枝野幹事長ら執行部の多くは慎重なため、国会提出の見通しは立っていない。

細野、馬淵氏ら会合

対案の提出を巡る
民主党内のスタンスの違い

提出に慎重



枝野幹事長



長妻昭代表代行



岡田代表



細野政調会長



長島昭久元防衛副大臣



馬淵澄夫長副幹事長

会合には細野、馬淵、長島の3氏に近い中堅・若手議員約20人が参加した。対

案提出に向けた発信を強める狙いがある。細野氏は19日のフジテレビの番組でも「いつでも法案を出す準備はできている」と述べ、対案をあきらめていない姿勢を強調。馬淵氏も20日のメルマガジンに、「一刻も早く対案を提出し、参院審議に供していかなければならない」と記した。

保守系は、国連平和維持

活動(PKO)協力法や周辺事態法の改正案を検討してきたが、党内で国会提出の了承を得られていない。領域警備法案は提出できたが、集団的自衛権の行使など骨格に関わる対案については、枝野氏や長妻昭代表代行ら執行部の多くが後ろ向きなためだ。

細野氏は、対案を提出しても民主党にメリットがないと考えている。20日には名古屋市内の街頭演説で「そもそも『憲法違反』の法案の対案は、やりようがない」と語った。政府を徹底的に批判することで、民主党の支持を回復する戦略を描いている。

安保関連法案に反対する党のパンフレットの徴兵制

議員は「党の支持率が低迷しているのも、対案を示せないからだ」と不満げだ。ただ、政府提出の関連法案は既に衆院を通過しており、今後民主党が対案を提出できても、「時機を逸した」という印象を与えそう

に關するページについて、保守系議員は「内容が過激で誤解を与えかねない」と反発したが、枝野氏は「パソンの(中身はいいものだ)と取り合わなかった。保守系議員の主張は党内でほとんど通らず、存在感はすっかり薄れている。ある中堅

議員は「党の支持率が低迷しているのも、対案を示せないからだ」と不満げだ。ただ、政府提出の関連法案は既に衆院を通過しており、今後民主党が対案を提出できても、「時機を逸した」という印象を与えそう

細野氏や長妻氏らに対しては党内に警戒感がある。維新の党との連携や将来的な野党再編を掲げているからだ。ある党幹部は「党内で主張が浸透しないからといって、他党に近づくのは『野合』に過ぎない」と細野氏らをけん制している。